

## 平成22年度 事業報告

### I. 会館の財政運営について

(1) 会館の基本資金である会館建設基金（出資金）については、昨年より出資依頼を中止しています。そのため、新たな出資者はありませんでした。

出資金の返済は、退職による返済が361人、3,822,000円でした。この結果出資金の総額は前年度より3,822,000円減の107,921,000円となりました。

(2) 収入の大半をしめる地代家賃は、100%納入されています。

(3) 会議室賃料は、前年と比べ約23%の減となりました。11月末から2月初めまで、外壁の全面改修工事のため貸出を中止したためです。一般の利用は昨年と比べ19%減、出資者の利用は31%減となっています。

(4) 会館共済事業の集金手数料は約3,000万円と安定しています。また教育会館の特別給付金は、申請期間を3年間に延長しましたが年間給付額が1,400万円弱で安定しています。

(5) 退職者福祉年金事業は、平成22年度は事務運営費として300万円を繰り入れることができました。しかし、平成24年6月（団体口）までに終了を予定していますので、23年度に300万円を繰り入れた後は、この事業からの繰入はなくなります。

制度の終了に向けて、加入者へのお知らせと解約の手続きを進めましたが、昨年度中に中央三井信託銀行の契約がすべて終了しました。残りの契約33名、18,000万円の信託先である住友信託銀行と連携して個別対応を秋から実施し、3月の個人口の制度終了に向け万全の手続きを行います。

(6) 会館経営の安定化のための各種引当は、継続的に充足割合を高めています。その中で、建物修繕引当預金は、外壁の改修関係に2,200万円取り崩したため、1,000万円引当しましたが差引1,200万円減少しました。

(7) 会計全般については、1989年度よりユース会計社（吉永公認会計士事務所）と契約して適正に処理し、円滑な執行に努めています。法人移行の準備として、区分経理を行いました。

### II. 管理業務について

(1) 夜間や休日の管理警備は、2名の職員が交替制で勤務し、常時できるようにしています。会館閉鎖は12月29日から1月3日までの6日間でした。

(2) 安全管理については、保守契約は別紙のように行っています。

(3) 火災の未然防止と万一の災害に備えるため、年2回の防火対策委員会を開催して防火管理組織・自衛消防組織を編成するとともに、火災時の避難訓練を実施しました。しかし、外壁工事のため冬の訓練ができなかったため、「地震等発生時のエレベーター停止時の対応訓練」を4月に実施しました。

また専門業者（ユージー防災設備）による防災設備の点検を9月15日と3月4日の年2回行いました。

(4) 外壁のタイルの剥落への対応として、7月に外壁の劣化度調査を行い、11月末から1月末にかけて外壁の全面補修工事を行いました。これにより、タイルの剥落や窓周りからの漏水の対策は完了しました。10年保証附帯契約としていただきますので、10年後をめどに再改修の対応を行うこととなります。

(5)「教育会館ニュース」を2回(6月、12月)発行し、会館の事業等の広報に努めました。また、ホームページを活用してタイムリーな情報の開示と発信に努めました。

### Ⅲ. 福祉共済事業について

#### (1) 会館共済

会館共済は昭和60年8月小学校の教職員を対象に生命保障『会館共済Ⅰ型』を始めて26年目となりました。生命保障・貯蓄型・医療保障と保障範囲を広げて今日に至っています。

#### ◎Ⅰ型(遺族生活給付金共済・医療プラン)

発足26年目を迎えたこの制度は、加入者総数が12,650名となりました。ここ数年減少傾向にありましたが、第26次キャンペーンの取り組みで前年より4名増となりました。

また11年目を迎えた「医療プラン」の加入者総数は約5,787名となり、前年より166名増加しました。

加入者の死亡に伴う遺族生活給付金については、平成21共済年度(平成21年9月1日～平成22年8月31日)は、死亡13人(前年度8人)で給付総額は1億9300万円(前年度1億3000万円)でした。また、医療プランの給付は190件(前年度184件)でした。

太陽生命の平成21共済年度の決算による配当金は、Ⅰ型が41.10%(前年度52.94%)、医療プランが39.80%(前年度39.75%)となり、加入者に支払いました。

会館独自の特別給付金(会計年度、平成22年4月1日～平成23年3月31日)は申請期間を3年間に延長して2年目となりました。給付状況は別表のとおりです。

#### ◎Ⅱ型(貯蓄型生涯保障共済)

新規加入者は21名で、加入者総数は1,013名(前年度1,053名)になりました。

#### ◎傷害プラン

第22次より導入した『傷害プラン』の加入者は、142名(前年度147名)でした。

(2) 会館共済特別給付金の給付申請については、給付の適正・迅速化を図るために、給付審査委員会の開催を毎月1回から2回に増やし、15日毎に審査を行っています。

(3) 共済事業の制度や運営のあり方等の検討を行うため制度検討委員会を8回開催しました。特に昨年は、長年の懸案だった「介護保障の導入」について検討を行い、Ⅰ型生命保障の特約として導入が可能になりました。平成23年9月1日から保障を開始します。

### Ⅳ. 教育文化事業について

#### 教育会館は営利を目的としない法人です。

共済事業での益金を教育文化事業の資金にしています。

(1) 教育会館設立25周年を記念して始めた図書券の寄贈を継続しました。これまでの20年間でのべ468校に寄贈しました。今年度も寄贈校26校全てを訪問して寄贈しました。これまでの寄贈総額は2,490万円です。平成

22年度の寄贈校は別掲のとおりです。

(2) 会館共済25次の記念事業として教職員対象に開催した「教育会館寄席」を、昨年は「学校寄席」として宇城市立豊福小学校でも開催しました。1年から6年生までの全児童と一緒に保護者、地域の方などが参加されました。

(3) かるた(小倉百人一首)の大会

2月6日(日)に開催された熊本県かるた協会主催の「第23回熊本県小中学校小倉百人一首かるた競技大会」を後援しました。今年も県下各地から多数の参加があり熱戦を繰り広げました。かるた競技の普及を支援するため、かるた協会が行っている月1回の練習会に対して、教育会館は会場を無料提供しています。

(3) 会館新築移転10周年を記念して、平成18年8月より『教育会館アートのひろば』を開催しています。熊本の教育に関係深い方の作品を、教育会館玄関ホールに展示しています。

(4) その他の教育文化事業として、メンタルヘルス『こころゆったり講座』を8月7日(金)に教育会館で、カムバック支援『育児休業者現場復帰セミナー』を12月8日(火)に水前寺共済会館で開催しました。また、18歳までの子どもの電話相談活動を行っているNPO法人『チャイルドラインくまもと』を支援するとともに、教職員向けの電話相談室『レモングラス』を毎週火曜日に開設しました。

## 平成22年度 決算報告

決算報告は、教育会館ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

## 平成22年度 図書寄贈校

〈小中 19校 県立 7校〉

◎印は「読書教育重点校」の2年目、

○印は1年目

荒玉 ◎三加和中

菊池 ◎大津北小

阿蘇 長陽小 坂梨小 阿蘇西小

南小国中 阿蘇中

上益城 ○飯野小

八代 ○宮原小 ○日奈久小

人球 久米小 球磨小 ◎岡原小

◎山田小学校

水芦 ○水俣第二小

天草 坂瀬川小 本町小 富岡小

◎牛深小

県立 熊本工業高校 熊本西高校

熊本北高校 東稜高校

○湧心館高校 ○熊本盲学校

○松橋養護学校